

オシト交配

ヤングメロン



耐病性・黄金色・栽培容易

〈特性〉 ● 果実は平均 700 g の球形、果皮は濃黄色で美しく、果肉は極めて淡い緑色で、肉厚は 3 cm と厚く、糖度は 15~17 度と非常に高い。肉質は粘質で、上品な食味である。また、高温期の裂果、醗酵がなく、日持ちが良いので、市場性が高く、とてもウマイ大衆メロンです。

● 草勢は普通で、葉は少し大型、濃緑、切込が深く、節間は中位である。耐病性は、ツル枯病に強い抵抗性を持ち、うどん粉病、その他の

病気にも極めて強い。

● 着果性は抜群に良く、作り易い。変型果が少なく、上物率が高い。成熟日数は、トンネル栽培で 45 日内外の中生である。

栽培型 \ 月別	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
ハウスⅠ		○	●			■	■	■				
ハウスⅡ		○	●			■	■	■				
トンネル			○	●			■	■	■			
ハウス抑制								○	●	■	■	■

○ 挿種 ● 育苗期 ■ 定植 ■ 収穫期





無敵の耐病性…肉質よく大型球形

〈作型と適応性〉 本種は周年栽培が出来る特性を持つ新品種でありハウスの少日照時の促成栽培で徒長せず節間は短かく、葉は濃緑で耐病性でありハウス内の温度を高目に保温管理しても雌花の着性は良く果実の肥大が良い。促成栽培は11月～12月蒔でハウス内にカーテントンネル等で保温して3～4月に収穫する。この時栽培で注意したい点は開花時期の光線不足であり葉面積よりも葉質を大切に考えて保温するようにする。1～2月蒔きのパイプハウスやトンネル栽培で育苗時は光が少なく、育苗床の面積を広くして節水栽培にすることにより雌花の分化発育を良好にすると5～6月の収穫となる。

大型トンネル栽培の2～3月蒔には定植後の生育が良く雌花の生育も良好で6～7月の収穫が出来る。北陸、東北地区の4～5月定植の7～8月収穫に於いても成熟日数は43日～45日で果内醗酵せず甘味も強く味も良好である。暖地抑制の7～8月蒔ハウス地這や立体の栽培にも10～12月収穫する栽培果実の肥大良く耐病性である。

〈整枝と着果〉 整枝法と着果数は果実の肥大に最も関係が深く、果実の大きさに於いても光線量との関係が大である。平均700g以上の中大果を着果させるには栽培時期により栽培期間を長期型、短期型と云うように考えて、果実の大きさを目的に栽植数や整枝を考えるとよい。促成のハウス地這栽培は初期の保温を経済的に考えた場合は畦巾を広くして中央に定植し株間は30cmで2本整枝として株を中心に両方に子ヅルを伸ばして子ヅルの7～8節目より発生する孫ヅルの第1節の雌花に着花させ1株4果を

収穫目標として他は摘果する。

パイプハウスやトンネルの初期に保温するカーテン等の三重被覆等では一方向整枝として2～3本整枝で孫ヅルに着果させる。この場の着果は極めて良好であるが1子ヅルに2果とするように果実の横径が2～2.5cmに生育した時期に摘果を確実にすること。これは子ヅルの10～12節内外が良いが、草勢が強い場合は8節内外の発生する孫ヅルに着果させる。大型トンネルは定植時は気温も温暖となりビニール等の保温で昼夜共に生育適温に近く、生育も早くなり着果も安定するが、しかし果実の成熟時期は高温、多湿となるから着果も栽培後半に合った節位である子ヅルの10節内より発生する孫ヅルに2果着果させ収穫時に秀品を収穫するように摘果を確実にする。

〈被覆と肥料〉 メロン栽培も降雨や過湿をきらう作物であり耐湿性の強いヤングメロンでも種々の作型に於ても保温や雨除けを目的とした被覆がある。着果数も決定されていることから施肥量は成分でN6～10kg、P10～25、K10～13を目標としてビニール巾が広い場合は少なく前進栽培は比較的増量する。被覆のビニールは保温と雨除けであるから、収穫最後までビニールを除去しないように果実に雨が当たらないように注意するとよい。

〈病害虫の対策〉 耐病性のつよいヤングメロンであるが地上部の病気ではウドンコ病はモレスタン等の撒布で赤ダニ等も防除できるから生育の中以後に撒布する。地下部のツルワレ病には強い方であり特に連作の畑以外は接木の必要もないが保菌畑では新土佐南瓜に接木するのもよい。